

言 寸 義

土木學會誌 第十三卷第六號 昭和二年十二月

上久屋發電水力工事報告

(第十三卷第二號所載)

會員 工學博士 永 井 專 三

發電水力工事に造詣深き利原氏の捌記工事報告に接し吾人はその教へらるゝところ多きを喜ぶものなるが更に左記數項に就て高教を得ば幸甚なり。

1. 流木路は全部金戸を用ゐず其の下部に角落し木材2本を落し込まれたるは如何なる理由に因るものなりや。
2. 魚梯は特に完備を期せられたるものゝ由なるも更に其の幅員を狭くし勾配を急となすも差支へなしと思ふが如何にや、本設計の如く決定せられたるには何か根據にてもあるにや、又魚梯は其の全長を通じて同一勾配と爲さず上りには緩く漸次上方に赴くに從ひ急勾配と爲して可なりと思ふ高見如何にや。
3. 排砂装置に就て記者は著者と主旨を同じくするものにして本工事に於ける排砂の構造も其の宜しきに適せりと思惟するところなるが
 - (イ) 第二號開渠に於て第一號溢流堤流過の水勢の爲め土砂の沈澱を妨げらるゝが如き事なきや、將又之が爲め却て土砂排除の作用を援くるものにや、
 - (ロ) 土砂誘導の爲め溢流堤下端に水門を設けられたるは巧妙なる方法なりと思惟するものなるが實際の成績を教へられたし、
 - (ハ) 第一號及び第二號開渠の渠底勾配を互に相異なるものとせられたるは如何の理由に基くものにや。
4. Concrete Placer の使用に就て
 - (イ) 鋼管摩損の程度を知りたし、
 - (ロ) 混凝土が其の送附中鋼管内に停塞せし事なきや、斯る場合ありたりとすれば之を避くべく採用せられたる方法如何を教へられたし。